

読者の皆さまへ

あけましておめでとうございます。

今号は、年初にあたり、2019年の世界のビジネス環境を俯瞰すべく「地域主義に試されるグローバル経済」を特集し、お届けしました。立命館アジア太平洋大学の出口学長の巻頭言をはじめ、当面の焦点である米国・中国、BREXIT、さらにEU・ロシア・中東諸国の結接点としても関心が高まるトルコをテーマとして各々の方々から寄稿を頂くとともに、不透明性に備える「リスク対応」の視点でも関係の方々から寄稿頂きました。

政治・社会の断片的なうねりがグローバル経済の根本に大きく影響する動きが世界の各所で高まってきていますが、経済学が教えるまでもなく、人・モノ・カネそして情報の流通の垣根を低くすることによって長期的には世界全体の厚生の向上が成し遂げられることは近代以降の人類の歴史が証明していることと思います。今の世界は、その際に発生する「調整コスト」をどう乗り越えるかについて、人類の知恵が試されている局面ともいえると思います。

また今号から新たな企画として「JOI文化部通信」を掲載しています。JOIが発信する情報も最近は専門的なものが増えてきていますが、事業先の国の文化も重要なビジネス情報です。今後、在日大使館などの協力も得てJOIスタッフが各国の魅力を紹介してまいります。

私ども海外投融資情報財団としては、本年も最新のビジネス動向や国・地域動向をテーマとした機関誌、セミナー、web上での情報交流などを通じて、会員の皆さまとともにway of thinkingを磨いていくべく、活動してまいりますのでよろしくお願いします。

編集長（専務理事） 日塔貴昭

海外投融資

Vol.28 No.1（通巻163号）
2019年1月18日発行

発行

一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人

日塔 貴昭

〒102-0073

東京都千代田区九段北二丁目

3番6号 九段北二丁目ビル

TEL. 03-5210-3311 (代)

URL. www.joi.or.jp

制作協力

(株)エディポック

*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



九段だより

●旅は日常に在り（4） 終着駅は始発駅

終着駅、と聞いて読者諸氏はどんな風景を思い浮かべるだろうか。

最果ての港町、山間の集落、都会のターミナル、はたまた寺社・行楽地の玄関口、いずれにしても、線路が途切れる風景は心になにか引っかかるものを与える（寝過ぎさない安心感を与える、という声も聞く）。映画やドラマのシーンで多用される理由もその辺にあると思う。たとえば高倉健主演の映画『駅 STATION』のラストシーンはその真骨頂であろう。

都会の終着駅の典型的な風景は、ヨーロッパの大都市でも多く見られる頭端式ホームの並ぶターミナルである。東京における代表格は上野駅の地平ホームであろう。かつては東北・上信越を結ぶ長距離列車が車止めにズラッと並ぶ、まさに「ふるさとの訛りなつかし停車場」であった。いまでは、新幹線や上野東京ライン開通のおかげで地平ホームの列車は激減したが、豪華クルーズ列車「四季島」が発着するなど終着駅の風情は健在である。



上野駅地平ホーム

頭端式ホームは大手私鉄のターミナルにも多用されている。なかでも最大かつ壮観なのは9本の線路が「行き止まる」阪急梅田駅である。日中には神戸、宝塚、京都に向かう特急・急行が10分おきに同

時に出発する。3つの電車が並走する「絶景」は、阪急通勤者にとっては日常の風景である。

他方で、都会の中に忽然と存在する終着駅もある。たとえば東京メトロの方南町駅。ここは地下鉄車庫設置に伴って周辺住民の便宜のため1962年に開業した駅であり、3両の区間電車がちょこちょここと折り返している。また、大阪市内の南海電鉄汐見橋駅はさらに「忽然」としている。もともとこの駅は1900年に南海高野線のターミナルとして開業した。しかし繁華街の難波から1kmも離れている不便さから本線から切り離されてターミナル機能を失い、今では2両電車が30分ごとに折り返すだけの「都会の秘境」になっている。

終着駅の駅名板は、どこも隣駅表示の片方が空欄である。列車はその先に行けず、方向を変えてそこを始発として再出発することを物語っている。まさに北島三郎の「終着駅は始発駅」である。特に最後の三番の歌詞がぴったりである。ここに載せたいのだが著作権手続きが煩雑なので、関心あらばインターネットなどでご覧いただきたい。

（専務理事 日塔 貴昭）



阪急梅田駅ホーム



汐見橋駅ホーム